社協だより

第68号　平成24年3月1日発行

編集・発行
社会福祉法人
名取市社会福祉協議会
名取市増田字柳田80　市役所西棟1階
TEL022-384-6669　FAX022-384-6844
http://www.natorisyakyo.or.jp/

現在の日和山（2月8日撮影）

震災前

震災直後

震災から半年後（9月28日）

主な内容

★会長あいさつ …… P2
★社会福祉協議会と災害ボランティアセンター …… P3
★災害ボランティアセンター活動報告 …… P4～P7
★震災直後の取り組みについて …… P8
★復興支援を目的とした寄付のご紹介 …… P9
★なとり復興支援センターひよりについて …… P10～P11
★赤い羽根共同募金実績報告 …… P12
★名取市社会福祉協議会決算、予算 …… P12
★友愛作業所からのお知らせ …… P13
★社会福祉協議会への寄付のご紹介 …… P14～P15
★社会福祉協議会のご案内 …… P16

〝一人じゃないよ〟

社会福祉法人名取市社会福祉協議会
会長　佐々木　秀典

まもなく、あの未曾有の東日本大震災発生から一年を迎えようとしておりますが、平成二十三年という年はとてもつらい、忘れられない年になりました。

まず、大切なご家族、ご親戚、友人を亡くされた皆様には衷心よりお悔み申し上げます。また、住み慣れた住居などを被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災に見舞われた皆様に少しでも早く落ち着いた生活が戻ってくることを願わずにはおられません。

一昨年の三月一日付けの社協だよりで自然界への畏怖と災害対応への思いを述べさせていただきましたが、奇しくもその一年後、あのような大災害が起こることになろうとは思いもよりませんでした。多くの尊い命を奪い去り、形ある物のすべてを流し去ってしまい、その悲惨さは目を覆うばかりで言葉になりません。また、避難誘導等に携わり多くの市民を救いながら自らの命を絶たれた方々にはその崇高な行動にただただ頭が下がる思いでありますが、返す返すも残念でなりません。

私ども名取市社会福祉協議会は、電気・通信網が復活して間もない、三月十八日に「名取市災害ボランティアセンター」を〝一人じゃないよ！一緒にがんばろう〟のスローガンのもと立ち上げましたところ、市内外から大勢のボランティアの皆様に駆けつけていただきました。特に市内の高校生・大学生を中心とした若者の多さに驚かされました。日本人の優しい思いやりの気持ちが間違いなく受け継がれているという喜びと、この先長い復興活動に活躍してくれるだろうという強い安心感が芽生えました。

「名取市災害ボランティアセンター」には、市民の皆さんはもちろん、県内外の社会福祉協議会、大学等教育機関、企業の皆さん、そして全国から、さらには国外からもボランティアの皆さんの参加をいただき、被災現場においてわが事のように泥まみれになって汗と涙を共に流してくれました。すばらしき優しい仲間にこの場をお借りし、心から御礼を申し上げます。

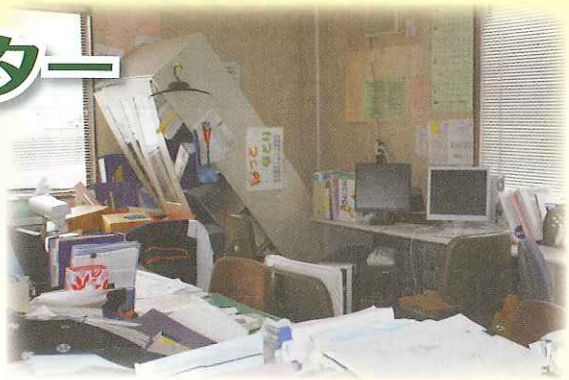
おかげさまで、八月初旬に「名取市災害ボランティアセンター」から「なとり復興支援センターひより」に衣替えをし、仮設住宅を中心に被災された皆様の生活支援等に取り組むことができております。

また、喫緊の非常時活動に忙殺され、日常業務が手薄になり、市民の皆様に災害対策情報を迅速にお伝えすることが適わず、本来業務に支障が生ずるなどご迷惑をお掛けしましたが、そのような中でも社会福祉事業に深いご理解とご支援をしていただき、真にありがたく厚く御礼を申し上げます。

今回の大震災、特に想像を絶する大津波によりこれまで培ってきた大切な絆をたくさん失いましたが、復旧・復興活動の中で新しい絆もできました。人間は一人で生きることは困難であります。「絆」という離れがたい繋がりを大切に、安心して笑顔で暮らせる地域社会の維持増進に一緒に取り組んでまいりたいと思います。

私どもは、この先長きに亘る復興活動に福祉の面からの支援と、安心して暮らし続けられる地域づくりに引き続き取り組んでまいります。皆様の特段のご理解とご協力を切にお願いを申し上げます。

社会福祉協議会と災害ボランティアセンター



災害ボランティアセンターの取り組みをご報告する前に「社協が、なぜ災害ボランティアセンターの設置運営を行ったのか」ご説明します。

災害VC準備時の様子。

社会福祉協議会（以下社協）は、社会福祉法を根拠として各市町村及び都道府県単位で設置されている民間団体です。名取市社会福祉協議会（以下名取市社協）も昭和46年の設立以降、高齢者への配食サービス（お弁当配達）や子供たちへの福祉教育など多岐にわたる分野で名取市の地域福祉に携わってきました。

社協が行う地域福祉活動には災害に対する活動も含まれます。大規模災害が発生した際、全国から駆けつけるボランティアと人的な支援を必要としている方々の結び付けを行う、災害ボランティアセンター（以下災害VC）の運営もその役割のひとつです。

災害VCは、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災をきっかけとして誕生したと言われています。その後様々な震災を乗り越える中でしくみや支援体制が整えられてきました。

このような状況の中、平成16年に宮城県・名取市・名取市社協の三者で覚書を交わし、災害VCの運営は名取市社協が担うこととなりました。また、名取市防災計画でも災害VCの運営は社協が行うこととされています。

そのため、名取市社協では地域住民の方々を対象とした災害VCに関する研修会や名取市防災訓練への参加、近隣社協との協定締結など、大規模災害が発生した際に迅速な災害VCの設置運営ができるよう準備を行ってきました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、事前の準備と地域住民の皆さんや関係機関などたくさんの支援の結果、震災から一週間後の3月18日、名取市民体育館を拠点に名取市災害ボランティアセンターの運営を開始しました。

開設後から、8月6日の閉所までの114日間にわたる活動については、次のページ以降でご報告いたします。

災害VCとは??

大規模災害が発生した際、被災地には「大変な状況にいる人たちのため、何か助けになりたい！」と熱い気持ちを持った多くのボランティアが駆けつけます。そういったボランティアが安全に活動するため、また被災された方々が安心してボランティアに協力を依頼できるよう、両者の間を災害VCがコーディネイト（調整）しています。ボランティアの思いと被災された方々の声を結び付ける存在と言えます。

災害ボランティアセンター活動報告

平成23年3月18日から8月6日まで114日間の運営を行った災害VC。

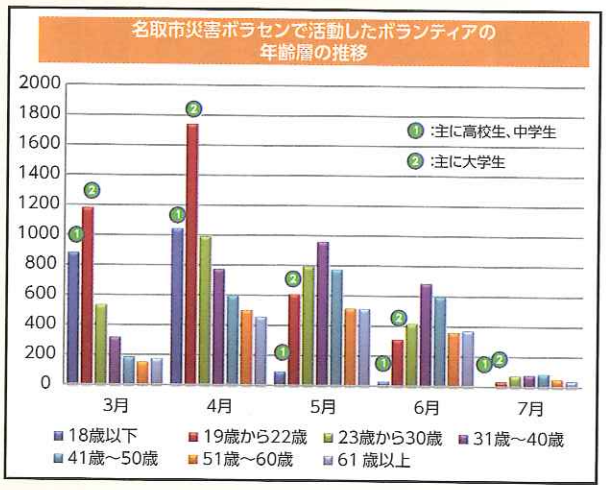
その活動は何もかもが初めてで、先が見えない道を手探りで進むようなものでした。

たくさんの人に支えられながら行った災害VCの活動について、ボランティアの状況・活動内容など踏まえながらご報告します。

災害VCの柱は「人の力」

災害VCの活動を支えているのは全国から駆けつけるボランティアです。一人一人が熱い思いを胸に抱き、支援活動を行っています。名取市災害VCにも連日たくさんのボランティアが駆けつけてくれました。協力してくれたボランティアの人数は延べで17108人にものぼります。

名取市災害VCは3月18日に開所しましたが、開所当時のセンターを支えたのは高校生や大学生といった若い世代のボランティアでした。



災害VCの本拠地となった名取市民体育館の駐車場は、ボランティアの自転車でいっぱいになりました。皆さんの元気な姿、若い力は災害VC運営スタッフの精神的な支えにもなりました。

また、5月の連休以降学校が再開されると、学生のボランティアから社会人のボランティアへと顔ぶれが変化していきました。

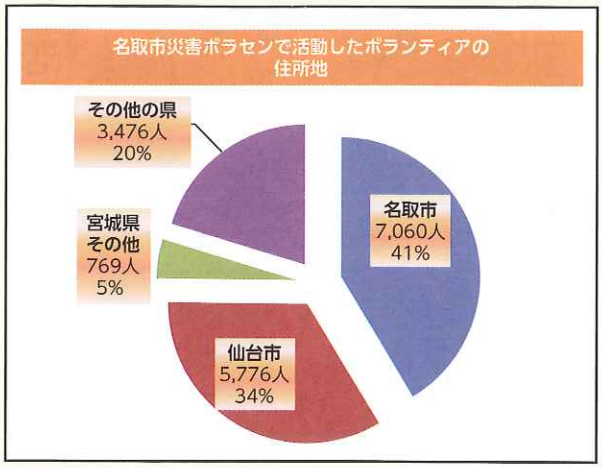
名取市災害ボランティアセンターのあゆみ ～市内の状況と社協の動き～

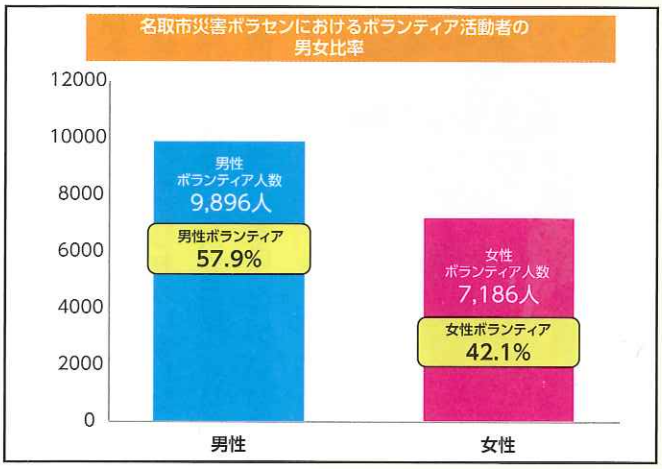
平成23年3月11日 14時46分	東日本大震災発生 M9.0 最大震度7（栗原市） 名取市 震度6強
	★社協職員・利用者の安否確認 ★施設の被害状況確認
14時49分	大津波警報発令
15時52分	名取市海岸へ大津波到達
16時00分	★名取市社協災害対策本部設置 ★名取市社協災害対策本部会議開催（以降状況に応じ随時開催）
3月12日	市内52か所の避難所に10，715人が避難
3月13日	★職員会議開催 ＊災害VC開設について協議
3月14日	★災害VC候補地確認 ★市内の状況確認
3月15日～17日	★災害VC開設に向けた準備 ＊市内民生委員などへ連絡（ニーズ掘り起こし） ★名取市役所へ炊き出し ボランティア派遣
3月16日	名取市役所周辺停電解消
3月18日	★名取市災害VC開設 ★災害VC準備 ＊資材調達 ＊会場準備 ＊スタッフ打合せ など
3月27日	ゆりあげ朝市再開
4月6日	★緊急小口資金特例貸付受付開始
4月7日	★ボランティア延べ活動者数5000人突破
	震度6弱の余震発生

災害VC活動内容の推移

避難所支援
地震片付け
泥出し・瓦礫等の撤去

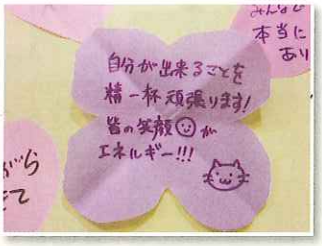
北は北海道、南は沖縄まで日本全国、果ては海外からもたくさんのボランティアが駆けつけてくれましたが、その中でも一番多かったのは地元名取市民の皆さまでした。活動者数全体の41％に及ぶ7060名が地元ボランティアの方々という結果に、今後の復興支援活動に向けた力強さを感じます。ボランティアの中には自らも被災し避難所で生活しているにも関わらず、「自分にできることをしたい」と活動に参加してくださった方も多数います。そういった、たくさんの思いが災害VCの活動には詰まっています。

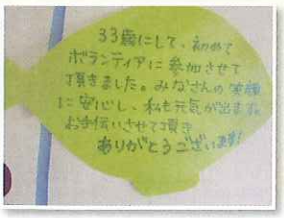




活動したボランティアの男女比を比較すると、男性が約58％、女性が約42％という結果になりました。災害VCというと泥の撤去や片付けなど力仕事のイメージが強いため、男性ボランティアが多いですが、避難所での子どもの遊び相手や高齢者の方の話し相手、炊き出しのおにぎりづくりなど、女性が活躍できる場面も多々ありました。

災害VCではメッセージボードを作成し、集まったボランティアの皆さんから名取へ向けたメッセージを書いてもらいました。同じ名取市民としての復興へ向けた決意、遠方から駆けつけてくれた方からの力強い応援の言葉、一人一人の方が名取を元気にしようと素敵な言葉を下さいました。その一部をご紹介します。





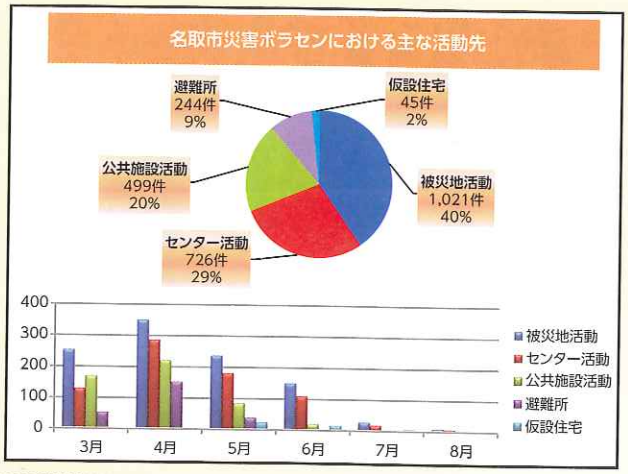
4月8日	★安全確認の為 災害VC活動中止（翌日からは通常運営）
4月10日	災害FM局「なとらじ」開局
4月13日	仙台空港一部就航開始
4月25日	東北新幹線仙台まで運転再開
5月3日	★ボランティア延べ活動者数10000人突破
	仮設住宅箱塚団地入居開始
5月10日	★緊急小口資金特例貸付受付終了
5月14日	雇用促進住宅入居開始
5月21日	仮設住宅箱塚屋敷入居開始
5月28日	仮設住宅愛島東部団地入居開始
5月29日	仮設住宅美田園第1入居開始
	仮設住宅美田園第2入居開始
	仮設住宅美田園第3入居開始
6月4日	避難所9か所を2か所に統合
6月12日	★ボランティア延べ活動者数15000人突破
6月18日	東日本大震災名取市合同慰霊祭
6月22日	避難者0人に（避難所閉鎖）
6月30日	★災害VC毎日型活動終了
7月1日	★災害VC金・土曜日のみのボラ派遣開始
7月16日	仮設住宅植松入生入居開始
7月23日	アクセス鉄道美田園駅まで区間運行開始
7月25日	仙台空港国内線定期便8路線再開
8月6日	★名取市災害VC閉所
	★なとり復興支援センターひより開所
8月12日	★災害VC片付け

仮設住宅関連

活動の内容は多種多様

災害VCの活動は多岐にわたり、震災後の時間経過とともにそれぞれの活動が占める割合が変化します。これは、ボランティアを必要としている方のニーズ（手伝ってもらいたい希望）に対しボランティアを派遣するためで、時間経過とともにニーズが変化した結果、ボランティアの活動内容も状況に合わせ変わっていきます。

左のグラフは災害VCの活動先についてまとめたものです。開設した3月から閉所までの月ごとの比較も行っています。避難所での活動が避難者の減少とともに少なくなり、それと同時に仮設住宅での活動（引越し支援）が増加するなど、それぞれの時期に応じた変化がみられます。災害VCは8月6日に閉所していますが、7月以降の状況を見ると、ニーズが落ち着き活動件数が減少していることがわかります。つづいて、それぞれの具体的な活動内容をご報告します。



被災地域での活動

地震や津波の被害にあった個人宅などでの活動です。主な内容としては、泥出し・瓦礫等の撤去、柱や食器などの洗浄、倒れたブロック塀の撤去などがあります。また、水に濡れた家具の運びだしや位牌探しも行いました。家族が片付けをしている間の話し相手（高齢者や障がい者の方）といった活動もありました。

避難所での活動

市内小中学校や名取市文化会館に設置されていた避難所での活動です。子どもの遊び相手や絵本の読み聞かせ、支援物資として提供された衣類の仕分けや配布協力、健康保持を目的とした健康体操インストラスターの派遣など、避難されている方々を支える活動が中心となります。

公共施設等での活動

名取市行政からも依頼があり、様々な活動を行いました。主な内容としては、炊き出しへの協力、市民体育館での支援物資の仕分け・搬入搬出、閖上小学校での漂流物の整理（補助的な形で協力）、図書館落下本の整理などがあります。保健センターへ看護師等の紹介も行いました。

仮設住宅での活動（引越し支援）

仮設住宅が完成した後、住民の皆さんが入居するにあたり、入居前の準備と引越しの支援を行いました。鍋などの日用品の仕分けや仮設住宅への運び入れ、仮設住宅内での引越し手伝いなどを行いました。

災害VCでの運営活動

災害VCの運営スタッフとして、多くのボランティアに活動いただきました。ボランティアの受付窓口、オリエンテーション、活動先を決定するマッチング、活動先までの送迎、スコップ等資材の管理・洗い方、ボランティアを活動先へ派遣するまでのすべての過程に運営スタッフとしてボランティアが関わっています。また、電話などの問合せ対応や活動先までの地図作成、ボランティア登録情報のデータ入力作業など、裏方として長期間活躍してくれたボランティアもいます。

災害VCの財源

災害VCの運営を行うためには資材の購入や送迎車輌のガソリン代など費用がかかります。今回、災害VCを運営するにあたって宮城県共同募金会から運営費用の助成を受けることができました。この助成金は毎年市民の皆さまからご協力いただいている赤い羽根共同募金を財源としているものです。また、同じくご協力いただいている社会福祉協議会の会員会費も災害VCの運営費用として活用させていただきました。

皆さまからいただいた貴重なお金が災害VCの運営費用となり、センターの活動を通して互いに支え合うつながりが生まれたとも言えます。本当にありがとうございます。

地域の皆さまとともに…
～震災直後の取り組みについて～

名取市社会福祉協議会には災害ＶＣ以外にも震災時に求められる役割があります。震災直後の混乱の中、その役割を果たすため社協職員がどのように行動したのか、どういった方々に支えられ進んできたのか、当時の状況を振り返りながらご報告します。

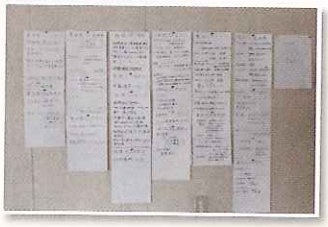
＋安否確認＋

震災直後、社協に求められる動きは「安否確認」です。社協で行っている各サービスの利用者や地域の見守り役である民生委員を経由した地域住民（特に見守りが必要な方々）の安否確認を行う必要があります。今回は震災の被害により通信手段が断たれた状況であったため、この安否確認作業は困難を極めました。

各地域では民生委員の皆さんが安否確認を行っていました。社協では民生委員が確認した情報を共有するため、そしてサービス利用者の安否確認と市内の状況確認を行うためほっとなとり（社協が運営を行っている介護保険法や障害者自立支援法に関連するサービスを行う事業所、詳しくは16ページをご覧下さい。）職員を中心に自転車で市内を回り安否を確認しました。

＋避難所支援＋

社協が運営するほっとなとりにはヘルパーや看護師といった専門職が勤務しています。今回の震災ではそういった専門知識・技術を持った職員が避難所支援にも携わりました。避難所となった保健センターにおいて、名取市職員とともに体調不良の方や寝たきりの方の健康チェックや介助などの支援を行いました。



＋貸付申請受付＋

震災で大きな被害を受けた方々が生活を再建していくためには、衣食住の環境を整えるだけでなく、金銭面での支援も必要となります。社協では4月6日から5月10日の間、市内の民生委員児童委員の皆さまにご協力いただき、緊急小口資金特例貸付の受付を行いました。この制度は震災で一時的に金銭の貸付が必要な方に対し、小口の貸付を行うもので、宮城県社会福祉協議会が中心となり宮城県内すべての市町村社協で受付が行われました。名取市でも多くの方が申請に訪れましたが、民生委員の皆さまの協力のおかげで混乱のない対応が行えました。

今回、改めて社協が行った震災対応を振り返ると、民生委員の皆さまをはじめとして多くの地域住民の皆さまと支え合いながら取り組んできたことがわかります。こういった支え合いを大切に、今後も復興へ向けた取り組みを行ってまいります。